

―長万部の学校、今昔をたどる。①―

かつて長万部町には9小学校、4中学校が存在した。人口減少が進む中、令和5年現在、小中学校各1校ずつとなっている。平成・令和に閉校した6つの小学校の足跡を振り返ってみよう。

藤岱小学校

藤岱は、長万部から寿都に至る重要な交通路に当たり、往來の多い場所であったため、安政3（1856）年には黒松内山道が開削され、同年から開墾が始まっていた。

ここに国鉄藤岱駅ができた明治37（1904）年、藤岱小学校が開校した（当時は二股尋常小学校特別教育所）。平成13（2001）年3月に閉校するまで96年間の歴史があり、422人の卒業生を送り出した。全校の児童数が60人を超えた時代もあった。昭和61（1986）年度には国鉄民営化の影響により児童数が0となったものの、翌62年度に復活した。

平成期には、春の探鳥会、大運動会、夏休みのキャンプ、雪祭り（雪中運動会、餅つき大会、かまくら遊び）など、年間を通して楽しいイベントを開催した。



03



04

- 01. 藤岱小学校雪まつり(平成10年)
- 02. 藤岱小学校校舎
- 03. 双葉小学校校舎
- 04. 双葉小学校体力づくり優良学校表彰式(昭和63年)
- 05. 共立小学校校舎
- 06. 共立小学校学芸会(平成20年)



01



02

最後となる平成12（2000）年度の児童数は2人。閉校後は双葉小学校へ統合された。この年の5月、NHKの「にっぽんを歩く③わらびっ子ふたり」で学校が取り上げられた。

双葉小学校

知来に愛知県から移住した地域住民の寄附・木材拠出などにより校舎を用意し、明治28（1895）年に長万部尋常小学校二股分校の開校が実現した。このときの入植者は濃尾地震（明治24年、愛知・岐阜で発災）の罹災者たちである。明治33年に二股尋常小学校として独立、昭和15（1940）年には双葉尋常小学校と改称した。幾多の変遷を経た後、平成5（1993）年には新校舎・体育館・プールが落成した。

昭和60年、PTA会員の奉仕でグラウンドに体力づくり施設が作られ、昭和63年・平成6年には北海道体力づくり優良学校表彰を受賞。平成12年11月には、開校100周年を迎え、記念式典・祝賀会を挙行了した。

児童数がピークとなる昭和38年には39人の卒業生を数えたが、昭和40年代



05



06

共立小学校

大正3（1914）年9月、幌内特別教授場として開校した。同6年に牧定内尋常小学校、同15年に共立尋常小学校と改称を重ねた。この間、昭和3（1928）年から着任し、同10年に第3代校長となった久保田力先生は、複式学校教育に特に力を入れ、定年退職する昭和27年まで地域の教育を支えた。

創立50周年を迎えた昭和38年には、静狩（幌内）原野が農地化され、校区に入植者が激増したので2教室を新築した。以降昭和40年ころまで在校生が80人前後で推移し、児童数がピークとなっ

た。その後急減し、昭和51年以降は10人未満となり、62年は2人となった。長万部小学校と統合し廃校となる平成21（2009）年3月まで卒業生は457人を数えた。

昭和59年には写万岳登山道開設に地域住民とともに関わった。平成7年の在学学生は、高速道路工事のためタクシー通学をした。「ふみの日」手紙：はがきコンクール団体の部学校賞（平成8年）、手紙作文コンクール学校賞（平成12・13年）などの受賞に加え、平成15年には全校絵手紙教室を実施するなど、特色ある教育を実践した。毛がにロードレースには、全校で参加していた。

半ば以降、児童数は減少した。平成17年3月の閉校（長万部小学校に統合）までに1235人の卒業生を送り出した。現在、グラウンドをパークゴルフ場として地域住民が整備し、今も活用している。

—長万部の学校、今昔をたどる。②—

中の沢小学校

昭和23（1948）年に開校し、同29年、洞爺丸台風（台風15号）により校舎が倒壊したため、翌年に新築移転した。児童数がピークとなる昭和30年代には100人を超え、120人となる年もあり、平成2（1990）年に新校舎へ移転した。

地域の人々の協力を得て、海浜運動会、親子サイクリング、夏季キャンプなどに取り組んだことが評価され、北海道体づくり優良学校（平成3・4年）、全日本健康推進学校表彰（平成5年）を受賞。また、学校と地域が協力して行う大運動会など、地域とともに歩んできた地域のシンボルであった。

平成5年7月の北海道南西沖地震では、校舎やグラウンドに大きな被害を受けたが、1年間を費やして復旧した。平成12年には、PTA会員等が協力し、



03

歴史を刻んで平成26年3月に幕を閉じ、長万部小学校に統合された。卒業生の合計は2822人に及ぶ。学校自慢の鼓笛隊は昭和40年に編成され、閉校まで地域のさまざまな行事で演奏を披露した。

- 01. 中の沢小学校校舎
- 02. 中の沢小学校 教員住宅前で雪遊び
- 03. 国縫小学校校舎
- 04. 国縫小学校 研究授業の様子(平成26年)
- 05. 静狩小学校校舎
- 06. 静狩小学校運動会(令和3年)



01

総合的な学習の時間で「ホタテの耳吊り」をテーマに地域体験学習がスタートした。

平成に入ってからおおむね30人前後で推移してきた児童数は、平成10年ころから10人以下となり、23年3月で児童数が4人となるため廃校し、長万部小学校に統合された。この間、451人の卒業生を送り出した。



02

静狩小学校

静狩小学校は、明治35（1902）年、静狩簡易教育所として創立。昭和9（1934）年に静狩金山精錬所が完成すると、児童数が激増して、校舎の増築を重ねた。鉱山が昭和18年に閉鎖されると、児童数は激減することとなった。この間、児童数は1000人以上に及んでいた。その後昭和50年までは100人以上の児童数を保った。平成14（2002）年には開校100周年を迎えた。

「笑顔のある学校を創ろう」を校訓に、運動会や学芸会、地域文化祭、サマー



05

国縫小学校は、明治26（1893）年に長万部小学校訓練分校として開校し、同33年、長万部小学校から独立。マンガン鉱の開発や鉄道開通によって集落は急速に発展し、児童数も教室に収容しきれないほどに増加した。

増改築を繰り返してきた校舎は老朽化も著しく、昭和50（1975）年に新校舎・体育館を完成させた。一時は卒業生だけで毎年70人に及んだ。昭和55年には茶屋川小学校が統合されたが、児童数の減少に伴い昭和58年度から複式学級を導入した。平成5（1993）年の北海道南西沖地震により校舎・プール・グラウンドに被害を受けたが、平成8年度までに復旧した。

平成17年度には完全複式校となった。地域の協力を得て多様な行事を開催したことも特色の一つだった。113年の

国縫小学校

キャンプ、学校園の活動、郷土芸能活動（静狩太鼓、よさこいソーラン）など、地域ぐるみで取り組んできた。1人1台の輪車があり、毎年の運動会で個人技・団体技が披露された。これは全国的にも珍しかった。

平成15年には、全道へき地複式教育研究大会渡島大会の会場となり、授業が公開された。

令和4（2022）年3月で119年の歴史に終止符を打ち、長万部小学校に統合された。この間、3262人もの卒業生を輩出した。



06

―学校づくりも、まちづくり。―

町には、長万部小学校、長万部中学校、そして北海道長万部高等学校（以下、長万部高校）がある。地域や小中高の連携、東京理科大学との連携を密にした教育が特色の一つになっている。

小中高の概要

明治11（1878）年に開校した長万部小学校は令和5（2023）年現在、145年の歴史を持つ。令和4年、静狩小学校を統合したことにより、通学区域は町全体となった。令和5年5月現在の児童数は163人を数える。

昭和22（1947）年に開校した長万部中学校は、昭和57年、町内4中学校（長万部、静狩、国縫、双葉）が統合して、新たな長万部中学校が開校し、校舎も現在地の栄原に移転した。令和5年5月現在の生徒数は97人。全校生徒と教職員が一堂に会しての給食が特色の一つとなっている。

長万部高校は、昭和25年に北海道八雲高校長万部分校（定時制）として開校、翌26年

01

に北海道長万部高等学校（定時制）として独立した。27年に通常課程普通科、33年に商業科を増設した。定時制課程は昭和60年、商業科は平成25（2013）年で閉課・科となった。

充実する連携の形

少子高齢化や過疎化が進む中、持続可能なまちづくり・学校づくりを目指す。平成17（2005）年度から24年度まで、長万部中学校と長万部高校の連携型中高一貫教育を展開した。中高一貫教育には、①ゆとりある学校生活、②継続性ある教育指導、③伸びる個性・才能、④豊かな人間性の育成などのメリットが考えられる。

両校の連携型一貫教育では、中学校での英語・数学のチーム・ティーチング、習熟度別学習指導、英語検定・漢字検定・数学検定の中高合同実施、部活動交流（陸上競技、バスケットボール、剣道等）、連携型入学者選抜などに取り組んだ。

さらに、平成27年10月には、東京理科大学と長万部高校との間で連携・協力に関する協定が結ばれた。

長万部高校は平成29・30年度の2年間、教育課程研究指定校（校種間連携）に指定され、長万部中学校と連携し、「町民ふれあいオリムピック」への参加、まちづくりプロジェクトの実施、東京理科大学教員の特別講座、同大学生によ

る大学案内・進路相談・特別授業、長万部高校卒業生による国際理解のワークショップ開催、同校オープンスクールへの長万部中学校2・3年生全員参加などの事業を実施した。その一環である小中高連携事業では、長万部小学校への理科・英語教員支援、小中合同の家庭学習強調週間の設定、小中高吹奏楽ジョイン

トコンサートなど数々の取り組みを行った。

一方、東京理科大学は、平成19年度から外国人教員を長万部小学校・中学校に派遣することによって充実した英語教育の展開に協力してきた。

このように、長万部町内の小中高、そして東京理科大学が相互に連携して、人づくりをまちづくりに繋げていく体制が充実している。

長万部高校への支援

長万部高校は、令和5（2023）年現在、3学年の合計生徒数45人、普通科1学級である。道立学校である同校の存続は町にとっても重要なテーマであり、数々の支援を行ってきた。

平成17（2005）年度から、町の学校給食センターによる学校給食提供（1食300円）を道内で初めて開始した。

平成20年度には通学定期代の全額補助、23年度には制服購入費の全額補助を開始し、現在に至るまで継続している。

また、長万部高校卒業生のうち国立大・東京理科大学進学者には、授業料の2分の1給付・2分の1無利子貸与という町独自の奨学金制度を設けている。さらに各種検定料金の3割補助、行事・部活の遠征などにおけるスクールバスの運行などを実施している。



03



04



07



06



05



02

- 01. 長万部小学校運動会(令和5年)
- 02. 長万部小学校校舎
- 03. 長万部中学校校舎
- 04. 長万部高校校舎

- 05. 長万部高校毛がにまつり出店(令和5年)
- 06. 長万部中学校吹奏楽部(令和4年)
- 07. 長万部小学校入学式(令和5年)